

巻頭言

日本一の飯炊き名人

(特非) シビルNPO連携プラットフォーム 理事
(株) 熊谷組 相談役
大田 弘



私の故郷は富山県黒部市宇奈月町である。同町は大正時代に開始された黒部川水力発電の開発拠点である。黒部川は日本を代表する急流河川であり、水力発電にはうってつけの豊富な水量と高低差を有する。今でこそ、下流に位置する扇状地は 200 年を超える治水事業により豊かな穀倉地帯となったが、江戸時代は洪水との厳しい戦いが繰り返されていた。

クロヨンの名で知られる黒部川第四発電所が完成したのは昭和 38 年、私が小学 5 年生の時。多くの村人がクロヨンで働いていた。そして、命を落とした人、傷ついた人がいた。クロヨン建設の成否が掛かった長野県大町からの資材搬入ルート・大町トンネル(5,000m)は途中で大断層・破砕帯に遭遇し、日本の土木史上でも屈指の難工事となった。僅か 70m の破砕帯を突破するのに 8 ヶ月間を要したが、この様子がリアルに再現されたのが映画「黒部の太陽」であり、観客数が 700 万人を超える空前の大ヒットとなった。この映画では土木技術者を中心に多くのヒーローが描かれており、当時の若者がこれに感動し土木界を目指すきっかけともなった。私もその一人である。

10 年ほど前に村に帰った時のこと。村の老女が私にこう言った。

「弘ちゃんは建設会社に勤めているそうだけど、クロヨンを知っているかい？」

「私はクロヨンで賄い婦をしていて、日本一の飯炊き名人と言われていたの」

「当時の男衆の元気の源は少ないおかずで腹一杯、ご飯を食べること。一人で 1 日平均 7 合を平らげたの」

「気圧が低い標高 1,500m の所で美味しいご飯を炊くのは難しくてね。そりゃあ色々工夫をしたの」

「みんな美味しい美味しいと言ってくれてね。また、元気に現場に出て行ったの」

「だからね、こう言っちゃなんだけれど、クロヨンは私が作ったようなものなの」

延べ 1,000 万人の人々が力を合わせて造り上げたクロヨン。この老女の自慢話を聞いて私は涙が溢れた。語り継がれるヒーローは極々一部の人。しかし、無名の多くの人々にそれぞれの誇り、それぞれのクロヨンがあってこそ前人未到の地で世紀の偉業を成し遂げることができたのだ。

クロヨンが遺したもの。一つは戦後の経済発展という「お金」。一つは土木技術・クロヨンという「物」。そして最も凄いことは“志の連鎖”という「人」であったのではないか。お互いに励まし合い、持ち味を認め合い、力を合わせて一生懸命に頑張る姿。留まることのない物質的豊かさの追求、節操のない競争主義、これらと引き換えに「日本一の飯炊き名人」の存在を忘れ、一番大切なものを何処かに置き去りにしたまま、我々は“暴走”を繰り返して来たのではなかろうか。

今、建設界では将来の担い手の危機的な減少が予想されている。このままでは更新期を迎える社会インフラの再整備すら危ぶまれる。そして、その対策として通称「担い手三法」といわれる法律改正が行われ、その運用が開始されたところである。

これには「発注者責任」と「受注者責任」が明記される。「発注者責任」とは、品質確保や担い手確保を受注者の自己責任に全てを委ねることなく、適切な価格・工期で発注しなければならないということ。「受注者責任」とは、技術的根拠のない安値受注、いわゆるダンピングをしてはならないということ。受注者である建設業は、同時に取引先に対する発注者責任も負うことになる。

価格至上主義の結果、疲弊した最前線の技能工などの担い手が希望の持てる真っ当な就労環境を取り戻そうという取組みが始まったのである。

この法律改正が適切に浸透・運用された証は再び「日本一の飯炊き名人」が各地で現れることだ。

「籠に乗る人担ぐ人。そのまた草鞋を作る人」を商いの根っこに据えてきた日本。これから大きく遠ざかった現代社会に身を置く一人として、自戒の念を込め、忘れ物探しの巡業に出ようと思う。



世界に先駆け、道普請のススメで貧困削減



NPO 法人道普請人 理事
福林 良典

2015年9月の国連サミットで、いよいよポスト2015開発アジェンダに関する宣言が採択される。2000年に決定されたミレニアム開発目標（Millennium Development Goals, MDGs）は、今年に達成期限を迎える。15年間にわたる国際社会の努力で、1990年を基準としたときに極度の貧困の半減、不就学児童の総数の半減などは達成され、母子保健、衛生等に関する目標は未達である。しかし、依然として地球規模の課題が残されているとして、2015年より先の新しい国際開発目標が決議されるのである。

当団体は2013年4月に、国連グローバルコンパクトの人権、労働、環境、腐敗防止に関する10原則に沿い、団体事業活動を進めることに署名した。日本でも多くの企業、学校、市民団体が参加している。産業界の国連事業への参画など、広く国際社会の動向に関心を持っている。

ポスト2015開発アジェンダの内容について、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」として策定が進められている。17の目標、169のターゲットが設定されている。多くの目標に土木業界が貢献できると考えるが、ここでは特に土木への期待が大きいと思われる「目標7：レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る」、「目標9：包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する」に触れてみたい。「レジリエント（Resilient）」は、英和辞書によると弾力的な、回復力のある、という意味である。この目標達成に向け、どのような具体的な活動が考えられるだろうか。社会環境により、有効な手段は様々であろう。

NPO 法人道普請人は開発途上国の農村部で、住民自身による生活社会基盤の改良活動を促進し、暮らしを豊かにする事業を進めている。現地調達可能資源で人力による手法、その一つとして土のうを利用した道路整備の住民への技術移転を、2007年設立時より実践している。この事業構想は2000年代初頭には、アフリカの農道のぬかるみの上に立った当団体理事長（京都大学工学部、木村 亮教授）の頭の中に芽生えていた。具現化の過程から現在でも、「整備効果はいつまで持つのか」「中途半端な道路整備だ」とコメントが寄せられる。これらに対し極端な表現であるが「壊れるまで持つ」と応えることがある。壊れることを許容しているのである。身の回りの材料で道を直す方法を覚えた住民は、壊れたら自分達でまた直すことで通行性が確保される。2015年の今、自分たちの活動は、レジリエントなインフラ構築、人間居住環境の整備の実現に向けた具体的な活動の一つであると思う。

昨年、土木学会100周年事業「市民普請大賞」に応募した。市民普請とは、「市民が主導的な役割を果たしながら、地域を豊かにするために実践する公共のための取り組み」である。当団体は日本の伝統的な道普請を世界の貧困削減のため国際展開している点を評価され、準グランプリをいただいた。これを励みに、今後も国際社会の目標達成に道普請で貢献していく。



第 17 回日本水大賞 ～NPO 風土工学デザイン研究所審査部門特別賞受賞～

6 月初め頃、CNCP 法人会員である「風土工学デザイン研究所」の竹林征三理事長から電話があり、表題に示すような賞の贈呈式が 7 月 7 日にあるので、理事としてぜひ参列欲してほしいとのことであった。受賞理由は、風土工学的手法による絵本・カルタや土木施設の命名等の創作活動が水文化の健全化に資するものとの評価である。祝意をこめ、トピックスとして紹介しておきたい。

日本水大賞は、秋篠宮殿下を名誉総裁、宇宙飛行士の毛利衛博士を委員長とする日本水大賞委員会による水関係の活動に対する表彰である。すでに第 17 回で、今年は毛利博士が館長を務める日本科学未来館で授賞式が執り行われた。新潟他 6 県を除く都道府県から総数 133 件（昨年は 171 件）の応募があり、内訳は各種団体 50%、学校 29%、企業 7%、行政 3%に対し、個人 17%となっている。活動分野的には、水環境 52%、水資源 18%、水文化 18%、水防災（復興支援含む）13%である。賞の内訳としては、大賞 1、国交省他関係省の大臣賞 6、市民活動賞 1、国際貢献賞 1、未来開拓賞 3、審査部会特別賞 3 の計 15 件である。これに日本ストックホルム青少年大賞 2 を加えると 17 件となる。

このうち大賞については、「地形特性を反映した津波模型による疑似津波の実演活動」と題して岩手県立宮古工業高校機械科が選ばれた。17 の受賞者の内訳は、大賞を含め中・高校生 6、市民ネットワーク 4、そして NPO 法人 4、と受賞 17 件のうち 8 割以上が地域に密着した活動に授与されたが、残念ながら大学関係者は皆無であった。総裁の秋篠宮殿下は開会の挨拶で、“私たちは、水から受ける恩恵に感謝し、先人たちの努力をさらに発展させ、安全で美しい水環境を礎とした国土を後世に引き継いでいく必要があります。本賞が、そのひとつの契機となり、多くの人々がそれぞれの地域で水を守り、水について活動をしていかれることを願っております。”と結んでおられたが、それにふさわしい内容であったと感じた。

さて、「風土工学デザイン研究所」は CNCP 通信 12 号にも紹介されているように、風土との調和を目指す、風土の誇りを形成する風土工学の必要性を提唱し、訴えてきている。そのアプローチの一つが意味空間の設計で、ソフトな意味空間デザインには物語・民話の創作やイベント、歌謡、歌留多、施設の命名等々がある。

具体的には、通算 17 年余の風土工学の普及啓発活動の一環として全国各地の風土を徹底的に調べ、その地に存する誇りうる風土資産を題材とした民話等を数多く創作してきた。それらのうち、地元の自治体（市）から創作民話最優秀賞を受賞した作品『鬼翔平物語』（入畑ダム水源地域の物語）他多数ある。また、カルタでは『諸美姫ものがたり風土歌留多』（森吉山ダム水源地）や『都道府県「かたち」いろはカルタ』、さらに風土資産の誇りの歌謡化が創作されたものに『こまで来たら北海道「オロロンライン編」』などがある。



表彰式は 12 時入場で、開会 15 分前以降は入場できないといった制限もあり、昼食抜きで 12 時半に行ってみると、すでに会場の指定された場所には竹林夫妻、忍見部長、藤澤さん、および佐川監事が見えていた。今朝 10 時から予行演習があったというから、皇族ご臨席のこうした催し物の執行プロセスの厳しさがある。もちろん写真も代表記者以外には禁じられている。各賞表彰が終わったところで秋篠宮・紀子妃両殿下が会場を去られる前に休憩を取って、両殿下と共に記念写真におさまる機会が与えられた。小生もその一人として最後列に並んだが、後日記念にということで事務局の日本河川協会から頂けるとのことのようだ。

3 時間余に及ぶ表彰式が全て終わって、別室で席を変え懇親会が行われた。上述のように 17 件の表彰の内 6 件が中・高校生グループであったこともあり、多くのが学生服姿の若い男女の姿が目立ち、どこか勇気づけられる思いをした。

なお、CNCP 会員関連では、個人会員三井元子理事が副理事長を務める NPO 法人「あらかわ学会」の第 8 回日本水大賞国土交通大臣賞の受賞がある。CNCP でも「ソーシャルビジネス提案コンテストの創設」を来年度からの試行を目指している。日本水大賞のような仕組みにまでは多くの時間が必要であろうが、努力したい。



授与式の状況（河川協会提供）

報告：有岡正樹（CNCP 常務理事）

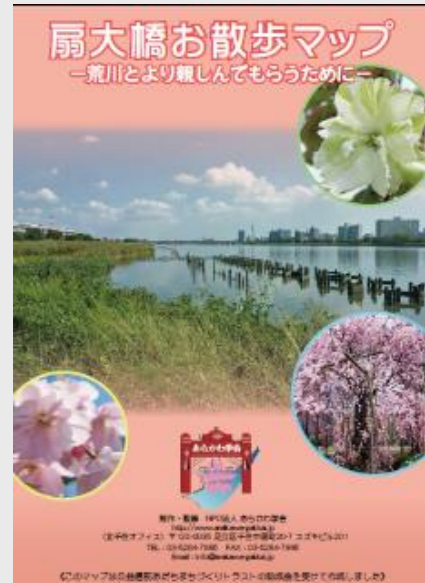
◆ 会員紹介 23

特定非営利活動法人あらかわ学会

～より良い荒川をつくるために～

あらかわ学会は、東京の大河川「荒川」に関心のある方ならどなたでも入ることが出来る会です。1996年に創設され、2003年にNPO法人化されました。私は、当初から総務担当理事として活動してきました。会員は、研究者・国交省・自治体職員・一般と、多岐に亘っており、現在80名ほどの会員がおります。

本年7月31日、「扇大橋お散歩マップ」が完成しました。2008年に日暮里・舎人ライナーが開通し、荒川放水路をまたぐように、扇大橋駅と足立小台駅が誕生したことから、荒川河川敷にアクセスしやすくなりました。そこで、河川敷での楽しみ方や街中の魅力を紹介し、活用していただくために、足立区の「公益信託あだちまちづくりトラスト」の助成を受けて作成しました。マップには、明治43年の東京・埼玉大水害により、大規模な放水路建設が行われたこと、旧隅田川の「荒川堤」には78種もの桜が咲き、文学にも登場するほどの花見の名所であったこと。現在、西新井橋から鹿浜橋まで「平成五色桜―荒川桜づつみ整備事業」が進められており、新しい桜の名所になりつつあること。街中の歴史散歩コースや市民団体活動紹介などが掲載されています。マップ製作に当たっては、4回の学習会とシンポジウムを行って、区民の意見を伺いながら完成させました。



扇大橋お散歩マップ A2版 8折 16面

今年度のもう一つの大きな事業は、「北区の岩淵水門竣工100周年に向けて、90周年の今（でしょ）できること」（北区協働提案事業）です。水害の体験談は今収録しておかないと大切な証言を記録しそこなってしまう。そこで、①北区と協働で証言者を募集し、2回の座談会を行って記録すること、②水害の歴史ビデオの製作、③シンポジウムを行って広く一般に北区の水害の歴史を知らせること、④土木部が所持していた水害の書き込みがある旧水路図をデータ化すること、を提案し事業を進めています。10月12日(月・祝)13:30～16:00 シンポジウム「語り継ぐ北区の水害」を荒川知水資料館アモアホールで開催しますので、ぜひご参加下さい。

このほか、あらかわ学会では、荒川堤の桜がワシントンDCのポトマック川河畔に植栽された歴史を記録した「～日米桜交流のふるさと～荒川堤の桜」（日本語版・英語版）を出版しており、100周年の2012年12月にポトマック川と荒川の姉妹河川提携を結びました。これからは、河川を通じた日米交流を活性化させていきたいと思っています。皆様にもお力添えいただきたく、ぜひ会員になって活躍くださるようお願いいたします。

特定非営利活動法人 あらかわ学会

北千住オフィス 足立区千住中居町20-7 スズキビル201
TEL 03-5284-7885 FAX 03-5284-7995
Email: info@arakawa-gakkai.jp <http://www.arakawa-gakkai.jp>

新しい世界に飛び出し、見つけた自分の付加価値

プライスウォーターハウスクーパース（株） CNCP 個人会員
中島 満香



私はこれまで、建設コンサル会社で10年間、外資系コンサル会社で2年間、行政機関を相手に公共事業の調査、設計、発注支援等を行ってきました。皆様もご存じの通り、行政相手のコンサル業務は激務で、繁忙期には数日家に帰れないことも珍しくない状態です。

こんな職場にしながら、2009年から本業とは別にNPOの中間支援団体「特定非営利活動法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京（SVP東京 <http://svptokyo.org/>）」に参画し、社会課題を革新的な手法で解決する社会起業家と二人三脚で、事業を成長させるべく協働を行ってきました。SVP東京は、社会課題の解決に人生をかけて取り組むNPOに寄り添うビジネスパーソンの集まりです。経営コンサルやベンチャーキャピタル、金融機関等に勤める100人以上のメンバーと一緒に、平日の深夜に協働先とスカイプで事業計画について議論し、週末は助成金申請のお手伝いをし、行楽日和にイベントスタッフとして汗を流す日々を、もう7年間も続けています。

〇改めて気づいた、行政コンサルとしての付加価値

SVP東京が協働する社会起業家の多くは20~30代と若く、いくらかのビジネス経験はあるものの行政との連携についてはほとんど経験がないため、どうやって行政にアプローチしていけばいいのかわからないという課題を抱えています。一方で、一度やり方が分かれば起業家マインドを遺憾なく発揮して事業を拡大し、社会に対して大きなインパクトを与える可能性も秘めています。私が行政機関相手のコンサル業務で培った行政連携のちょっとしたコツを社会起業家にお伝えすると、その後見違えるように成長していった団体も数多く存在します。

このような経験を通じて、「行政コンサル」という存在が社会に対してどれほどの付加価値を生み出せるのか、改めて気づかされました。そして、その価値は、会社と自宅を往復するだけの日々では決して見いだせないことも身に染みて感じています。

CNCP会員の皆様は忙しい日々をお過ごしかと思いますが、ぜひ、違う世界に飛び込んでみていただきたいと思います。改めてご自身の付加価値の高さに気づかされること請け合いです！

〇仕事での悩みが、NPO支援に踏み出すきっかけに

と、こんな大きなことを言っていますが、そもそも私がNPO支援の世界に飛び込んだのは、ある仕事での行き詰まりがきっかけでした。水源地域の活性化支援業務に携わっていた私は、地域の方と様々な活性化イベントを仕掛けながらファンづくりに奔走し、地域の活性化と自立支援をしていましたが、ある年行政からの支援業務委託が終了。その後、その地域では活性化活動が困難となり、イベントの規模縮小や廃止が相次ぎました。地域の方からは行政に対する批判の声も聞こえます。このような状況になって初めて、私は自分の仕事が失敗だったことに気づきました。私は「イベント等で（一過性の）賑わいを生む」ことに終始し、「行政の支援が終了しても地域が自立できること」をおろそかにしてしまったのです（今考えても後悔です）。

その後、過疎地域が自立するために必要なノウハウを積むため、NPOの経営支援について勉強を進める中で、ビジネスパーソンがNPOを支援するSVP東京にたどり着きました。この7年間で様々なNPOの成長を支援することができ、国の白書で取り上げられるほどの実績を上げたNPOもあります。また、SVP東京の仲間からも刺激を受け、自分では気づかない自分の価値にも気づく機会をいただきました。

失敗は新しい自分を発見するチャンスだと言いますが、今では仕事で行き詰るたびに、「これも良い経験。次のチャレンジに向けた必要な試練だ」と自分に言い聞かせ、軽やかに乗り越えています。失敗をチャンスにつなげることができれば、プロとしても、一人人としても、きっと大きく成長できるはず。これから楽しみなことばかりです。

◆ イベントのご案内

土木学会シビルNPO推進小委員会

平成27年度全国大会研究討論会のご案内

1) 日時・場所

- ・日時；平成27年9月16日(水) 14:40~16:40
- ・場所；岡山大学津島キャンパス 一般教育棟 A-31 講義室

2) タイトル；

地域のインフラメンテナンスにおけるNPO等サードセクターの役割

3) 主題；

平成24年末の管子トンネル事故を奇禍として、インフラ施設のメンテナンスの重要性が再認識され、土木学会は改めてこの問題に取組み、翌年「取組み戦略」を発表し、引き続き検討を進めている。国では平成25年を「社会資本メンテナンス元年」と位置付けて検討を進め、同年末に維持管理・更新のあり方について答申、平成27年2月に市町村におけるメンテナンス体制の確立に関する提言があった。

土木学会シビルNPO推進小委員会では、特に地域におけるこの問題について幾つかの発信をしてきたが、現状でNPOは必ずしも多くを期待されていない。しかしながら、過疎や高齢化などの地域が抱える問題を踏まえて、NPO法人などサードセクターの活動による課題解決への動きが想定される。今回、これをテーマに各界の意見交換を図る。

4) 座長；駒田智久

シビルNPO推進小委員会委員長（CNCP 土木学会連携担当理事）

5) 話題提供者

- ・行政関係；阪井暖子（東京都都市整備局 都市整備部交通企画課交通政策係主任）
国土交通省国土交通政策研究所研究官として「社会資本の維持管理・更新のための主体間関係に関する研究（中間報告書）」（平成27年3月）を取り纏め。
- ・大学関係；田村隆弘（徳山工業高等専門学校土木建築工学科教授）
専門；コンクリート工学、「コンクリートよろず研究会」立上げ
周南市道路橋梁長寿命化修繕計画に参画。
- ・シビルNPO関係；有岡正樹（CNCP サービス提供部門担当常務理事）
NPO法人 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会理事長
CNCP 自治体インフラメンテ事業化研究会委員
- ・民間事業者関係；海野達夫（㈱エイト日本技術開発 中国支社 国土インフラ事業部）

6) 進行

- ・各話題提供者による話題提供（@15分）の後、意見交換 約50分を予定
- ・論点；
 - ① インフラメンテナンスの分野でシビルNPOは何らかの役割を果たせるのか？
 - ② 果たせるとして、それはどのような場面で、どのような役割か？
 - ③ 果たそうとして果たせないでいる阻害要因は何か？それをどのように克服していけばいいのか？



特定非営利活動法人シビルNPO 連携プラットフォーム(CNCP)
平成27年度通常総会ならびに記念行事ご案内

- I. 総会（個人・法人正会員）
 - 1) 日 時 平成27年10月31日（土） 14:00～15:30
 - 2) 場 所 ちよだプラットフォームスクエア402会議室
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
TEL 3-3233-1511

- II. 講演会（法人賛助会員および一般歓迎）
 - 1) 日 時 平成27年10月31日（土） 15:30～17:00
 - 2) 場 所 ちよだプラットフォームスクエア402会議室
 - 3) 講 師：田中滋夫氏（株式会社都市デザイン代表）
 - 4) 演 題：「まちづくりと中間支援組織」

- III. 懇親会（法人賛助会員および一般歓迎歓迎）
 - 1) 日 時 平成27年10月31日（土） 17:00～18:00
 - 2) 場 所 ちよだプラットフォームスクエア1階 fune
 - 3) 会 費 2,000円

事務局通信

1. 8月の会議予定
 - ① 8月5日(水) 10:00～12:00：インフラメンテ事業化研究会
 - ② 8月5日(水) 14:00～16:00：運営会議
 - ③ 8月5日(木) 16:30～18:30：教育研修委員会
 - ④ 8月12日(水) 13:30～16:30：公募型事業検討会
 - ⑤ 8月25日(火) 14:00～16:00：理事会
 - ⑥ 8月25日(火) 16:00～18:00：SB提案アワードワーキング

2. 理事会、通常総会の予定
8月25日（火）に理事会、10月31日（土）に通常総会を予定しています。
通常総会のご案内は、9月初旬に発信する予定です。

3. 7月6日現在の会員数
法人正会員22、個人正会員21、法人賛助会員31 合計74

事務局

お問い合わせは
こちらまで

特定非営利活動法人

シビルNPO 連携プラットフォーム

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目13番地7
名古屋ビル本館2階 コム・ブレイン内

事務局長 内藤 堅一：info@npo-cncp.org
ホームページURL：<http://npo-cncp.org/>

設立 1 周年・連携をさらに広げよう！

シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP) 会員増強キャンペーンを実施します。

平成 26 年 8 月 1 日に法人登記した特定非営利活動法人シビル NPO 連携プラットフォームは、平成 27 年 8 月 1 日から第 2 期目の活動に入りました。

現在の会員数は法人正会員 22、個人正会員 21、法人賛助会員コンサルタント 16、法人賛助会員ゼネコン 15 で合計 74 でした。平成 27 年 8 月 1 日付けで土木学会に賛助会員として、加入していただき、第 2 期は会員数 75 でスタートします。

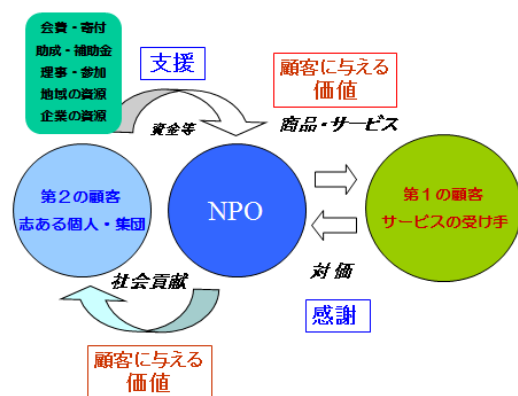
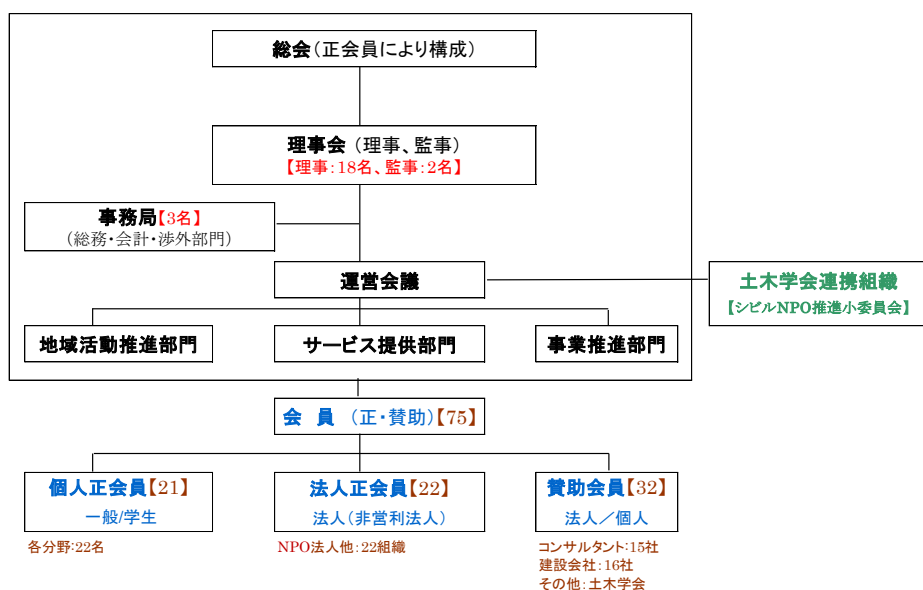
CNCP は 1 周年を期して、会員増強キャンペーンを実施することになりました。つきましては、現在の正会員及び賛助会員の皆さんのお力も借りて、シビル NPO としてご活躍の団体・組織に対して、CNCP への加入を働きかけたいと考えています。呼びかけに際しては、CNCP 通信とリーフレットの 2 種類のツールをご活用ください。

- CNCP 通信には、多くの会員方々にいろいろな欄に執筆をいただけてきました。CNCP 通信は、巻頭言、コラム、トピックス、会員紹介、会員からの投稿、部門活動紹介、イベント案内などで構成されています。CNCP 通信 vol.1 には、設立時の思いが多数掲載されています。印刷したものはありませんので、ホームページからプリントして活用していただきたいと思います。
- リーフレットは余部が事務局にありますので、必要な場合、一報いただければお送りします。

是非、正会員及び賛助会員のみならず、シビル NPO としてご活躍の団体・組織に対する参加の呼びかけをお願いします。

ホームページ([URL:http://npo-cnccp.org/](http://npo-cnccp.org/))には、毎日平均 300~500 のアクセスがあります。こちらから PR して下さい。

NPO 法人「シビル NPO 連携プラットフォーム」組織図 (2015.8.1 現在)



シビル NPO と 2 つの顧客
(様々な組織との win-win をめざして)

CNCP 組織図

